

## 今後に向けて

小中学校教員の多忙化問題に関する検討委員会は、『 多忙化問題の改善に向けた提言 』において、『 A 各小・中学校で取り組んで欲しいこと 』及び『 B 市町村・県教育委員会が取り組んで欲しいこと 』として、それぞれ6つの観点から、小・中学校と県・市町村教育委員会に対して、提言を具体的に行うものである。

これらの提言の具現化については、各小・中学校及び県・市町村教育委員会が、それぞれの実態を踏まえ、主体的、継続的に取り組むべきものと考えていることから、敢えて、提言の実現の期限を設けなかった。

学校に対する提言について検討する中で、この多忙化問題は様々な要因によるものではあるが、その解決には、まず、教員自身が問題の本質を見つめ、その改善のために各学校の実態に応じ、具体的な行動を起こしていくことが大切であるとともに、各学校での取り組みには、市町村・県教育委員会や関係団体の協力が欠かせないことも確認された。

各市町村教育委員会、県教育委員会において、各々の立場と実態に応じて、主体的に本提言を実行に移し、継続的に教員の勤務実態と問題の改善状況を把握しながら、今後も小中学校教員の多忙化問題改善に努めて頂くことを期待したい。

そして、各小・中学校と市町村・県教育委員会が、多忙化問題改善のために主体的に取り組むことにより、教員が心身共に健康で、児童生徒と向き合う時間を生み出し、教育活動をさらに充実させることができることを望むものである。

なお、この提言は、教育関係団体にも送付し、趣旨をご理解頂くとともに、各学校や県・市町村教育委員会の取組に、ご協力を頂けるようお願いする予定である。